

事業系ごみ減量のために

ごみを「減量」「適正処理」していますか？


「事務所や店内から出るごみ」は、事業所によって出る量や質は様々ですが、出し方や分別など管理が行き届かないと処理費用がかさみ、清潔に保つことができません。

事業者は、廃棄物処理法及び市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例により、事業系ごみを自らの責任で適正処理し、減量することが義務付けられています。

このリーフレットでは、事業系ごみの適正処理と減量・リサイクルの方法について紹介しています。簡単なことから減量とリサイクルに取り組みましょう。

資源物を分別すると、処理費用が安くなることがあります

- ① 古紙や段ボールなどの資源物とごみを分別する。
- ② 資源物を再生資源業者に売り払う。
- ③ 資源物を売却することで、ごみ量が減る。

 その結果、ごみ処理に要する費用が安くなる。

ごみ減量・リサイクルすると、企業としてこんなメリットもあります。

◆企業のイメージアップ
環境に対する意識は年々高まっています。環境に積極的に取り組む企業としてPRすることによって、企業のイメージアップにつながります。

◆コストの節減・効率化
事務用品の節減など、職場での浪費や無駄を減らすことで、ごみの減量と経営コストの節減・効率化につながります。

◆従業員の意識改革
分別ボックスの設置や研修の実施などにより、ごみ(=ムダ)を出さない職場を目指すことで、従業員1人ひとりのごみ減量についての意識改革につながります。

■ごみ箱を減らす/ストックボックスを設置する

ごみ箱がなければ、安易にごみは捨てられません。ごみ箱を減らし一箇所に集めるなど、ちょっとした工夫が減量の意識付けになります。ごみ箱の近くに、ストックボックスや裏紙使用専用ボックスを設置すれば、紙の回収率が上がります。

■紙の使用量を減らす

会議に大量の資料は必要でしょうか。資料は必要枚数にとどめ、プロジェクターやタブレットなど情報端末機器を使用し、会議資料を共有することで、ペーパーレス化が図れます。

■部署ごとに管理する

会社全体で紙の使用量を把握していても、部署ごとでは把握していない場合があります。各部署で紙の使用量を管理し、前年度との比較や他部署と見比べれば、部署内での意識が高まります。

■レジ袋削減/店頭回収の促進

レジ袋も経費の一部です。マイバッグを販売する、マイバッグ持参者に割引やポイントを付与するなど、消費者が行動を起こす“きっかけ”をお店から発信してみませんか。また、牛乳パックや食品トレイを店頭回収するなど、環境に配慮した事業所であるとPRでき、イメージアップが図れます。

■納品用資材を変更する

納品メーカーに、プラスチックコンテナによる納品に切り替える相談をしてはいかがでしょうか。段ボールの一部は、汚れなどが原因で処分されるケースがあります。資源の有効活用のため、再生利用可能な容器に切り替えることが大切です。

■空き缶・空きびんをリサイクルする

空き缶・空きびんは資源物です。飲料用の空き缶・空きびんは、自動販売機の納入業者に引取ってもらう、あるいは、収集業者に分別収集を依頼してみてください。

■生ごみを水切りする

生ごみの約7割（重量比）は水分です。水分が多く含まれると、ごみ袋が重くなり、運ぶのが大変です。また、夏場は腐りやすく、臭いもして不衛生です。生ごみは、ザルなどでしばらく水切りすれば軽くなります。生ごみを出す時は、水分を十分に切りましょう。また、生ごみ処理機を活用すると、更に減量や軽量化が図れます。

■食べ残しを減らす

食べ残しは、ごみ処理の費用としてお店に跳ね返ります。宴会の席では、幹事さんに食べ残しをしないよう呼び掛けたり、ステッカーやポスターでPRする、食べ放題プランでは、食べ切るまで次の注文が出来ない仕組みを取り入れるなど、食べ残しを減らす働き掛けをしましょう。

■“使い捨て”は使わない

使い捨ての紙コップや割り箸は使わず、繰り返し使える容器や洗い箸を使用しましょう。石鹸やシャンプーは詰め替え容器にする、酒類やしょうゆなどをリターナブルびんで仕入れると経費節減になるとともに、環境に配慮した事業所であるとPRでき、イメージアップが図れます。

■ごみ保管庫の管理/ごみ処理フロー図の活用

ごみ保管庫の中が、ごみと資源物で混在したら管理が大変です。間仕切りやボックスの設置などにより、ごみと資源物を区分できるごみ保管庫にしましょう。

また、分別区分や排出ルートを書いたごみ処理フロー図^{*}を掲示すれば、出し間違いが少なくなり、分別に取り組みやすいごみ保管庫になります。

■処分量・リサイクル量を把握する

出たごみをそのまま収集業者に引き渡したら、どれ位のごみが発生しているのかという意識が芽生えません。減量取組のきっかけとして、ごみ種別（ごみと資源物）に計量しましょう。

計量データの集計と減量取組の成果^{*}を社内で情報共有すれば、更なるごみ減量とリサイクルにつながります。

※「ごみ処理フロー図」と「計量データの集計と減量取組の成果」様式は、市ホームページ「事業系ごみの減量方法」で[検索](#)

寝屋川市の取り組み

空き缶・空きびんを分別収集してみませんか？

事業所から出る空き缶・空きびん（容量が5リットル未満の食品用又は飲料用の容器）は寝屋川市で処理できます。空き缶・空きびんの分別はごみの減量につながります。収集方法など詳しくは、寝屋川市環境総務課までご連絡ください。

資源物を地域の集団回収に提供してみませんか？

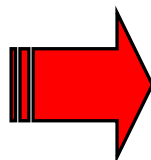
寝屋川市では、事業所から提供された新聞や雑誌などの資源物も、地域の集団回収活動団体の報奨金の交付対象にしています。資源物の提供は、企業のイメージアップ、地域との交流や活性化につながります。

お近くの集団回収活動団体など詳しくは、寝屋川市環境総務課までご連絡ください。
◎事業所に報奨金を交付するものではありませんのでご注意ください。

カラスによる生ごみ散乱の被害が出ています

注意

ごみを店先や路上に置いていませんか。そのごみ、カラスが狙っています。ネットやポリバケツを使用するなど、カラスに荒らされないように対策をお願いします。ごみの散乱は、地域の方とのトラブルになる恐れがあります。



【お問い合わせ先】

環境部環境総務課 TEL：072-824-0911
<http://www.city.neyagawa.osaka.jp>
k-somu@city.neyagawa.osaka.jp